

十字園だより

第128号



笑顔あふれるクリスマス

昨年12月22日、クリスマス会が催されました。数日前から園内の至る所にクリスマスの飾り付けが施され、「サンタ来る」「サンタさんに靴をもらおう」と、皆さんの期待もどんどんふくらんできました。

当日は園内にクリスマスソングが鳴り、テーブルクロスが掛けられたテーブルで豪華なランチを楽しみました。ランチの後のイベントでは、ピアノやギターの演奏に合わせて手拍子やマラカスを鳴らし、迫力のあるチアダンスに目を奪われました。そして、サンタさんとトナカイからお待ちかねのプレゼントを受け取り、笑顔いっぱい。素敵なクリスマス会となりました。

(山際)



草花のある風景

課長
久根内 恵子

十字園の敷地内にはまだまだ整備されていない空間があります。その中を、愛慈こども園の園児さん達がかわいらしい声で走り回り、虫探しに歓声を上げる様子は何とも言えない微笑ましいひとときです。

十字園の土壌は肥えて素晴らしく、巨大なミミズに遭遇してびっくりすることもありません。草花が根を広げ、冬を越す度に大きく育っていきまします。水まきや草取りをしませんか？と声を掛けると喜んで手を貸してくださる利用者さん。とつても贅沢な時間が流れます。そこに、近所の方が通りかかり、「この花の名前はなんていうの？」「少し分け

てもらって宜しいですか？」とお花をおすそ分けします。

また、「良かったら、一緒に育ててもらえるかしら？」と鉢植えを持ってきてくださる方もいます。色とりどりの草花が十字園の多様性をより彩り豊かにしてくれます。

ある本に書いてありました。人間も、植物もたくさんの肥料は要らない。その生命力に、手間暇かけて尽くすことで生きる力、免疫力が高まるのだと…。ついつい、化学肥料を与えてしまいがちですが、自然の土壌には微生物や虫たちが役割を持って生きています。十字園は創立45年目を迎え、これから、地域とともに歩んでいきたいと思えます。どうぞ宜しくお願いします。



新潟市障がい者

基幹相談支援センター

相談員 山田 恵

新潟市障がい者基幹相談支援

センターは、新潟市から委託を受けた社会福祉法人がコンソーシアム(共同体)を組み、市内4ヶ所で障がい者に関する総合的な支援をおこなっています。更生慈仁会(十字園)は平成15年より委託を受け障がい児・者相談支援センターとして業務をおこなってきましたが、平成27年4月に障がい者基幹相談支援センター中央に再編され、新潟市総合福祉会館内で引き続き業務をおこなっています。

基幹相談支援センター中央がおもに担当する中央区は、人口17万6千人と新潟市の中で最も人口の多い行政区で、障がい者手帳所持者数も8区の中で最も多い8283人(平成28年3月末現在)となっています。

新潟市障がい者基幹相談支援センターの業務は、

- ① 総合相談
 - ② 地域の相談支援体制の強化
 - ③ 精神科病院および施設入所者等の地域移行支援
 - ④ 権利擁護・虐待防止
 - ⑤ 障がい児の療育等支援
- など多岐にわたります。

平成28年4月、「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」が施行され、相談受付窓口としての業務が追加されました。窓口に寄せられる相談は、障がい特性に応じた合理的配慮が必要とされるケースも多く、障がい者の権利擁護に関する専門的な知識や実践力が相談員に求められています。障がいが見えにくくなっていない方、ひきこもり、触法障がい者等の相談も年々増加しており、日々関係機関と連携を図りながら業務をおこなっています。

ひのき寮

主任 伊藤 孝之

今年度も利用者の皆様の笑顔、そしてご家族の皆様のご理解とご協力を頂きありがとうございました。

怪我や病気、事故等で利用者及び家族の皆様にはご心配とご迷惑をお掛けして申し訳ありませんでした。その都度ご家族からは温かいお言葉を頂きありがとうございました。

した。

来年度も引き続き、日々の活動の充実と余暇支援に力を入れ、取り組んでいきたいと思えます。季節を感じながら外を歩いたり、ドライブをしたり作業を行ったり。そして、時々違った雰囲気の中で美味しいものを食べたり、いつもとは違ったものを見たり、出かけたりする機会を増やす事が出来ればと思えます。

今年度も色々ありがとうございました。来年度も引き続き宜しくお願い致します。



11月17日、新津にある秋葉温泉「花水」へ行って来ました。天候にも恵まれ、皆さん上機嫌です。

和室一部屋とお風呂を貸し切ったの入浴です。いつもと違うお風呂に大喜びでした。

昼食は、かつ丼やカレーなど好きなものを注文しました。食後にはコーヒーを飲んでリラックス。あっという間に時間が過ぎて行きました。美味しいご飯と温泉は最高でした。来年も楽しみですね。(伊東大佑)



3つの活動

ひのき寮は、利用者さんにより良い生活を送って頂けるよう、日中活動・余暇・環境の係活動を行っています。

日中活動は利用者さんが好まれることへの提供を、余暇は外に出掛けることでの楽しさの提供を、環境は、衛生面や業務の見直しなど細かな部分への配慮を日々行っています。

来年度も今年度以上に、3つの活動がより充実したものになるよう努めて参ります。
(木村裕介)



いぶき寮

主任 引原 望武

今年度は、『体を動かす機会を設け、健康で穏やかに過ごせる場所を提供する』という目標を掲げ、取り組んできました。

体を動かすことによっての体力作りはもちろんのこと、リフレッシュ効果も意識し、

ご利用者お一人おひとりに合った活動内容を検討し提供してきました。楽しみながら体を動かすことによって、心の安定も図られたように思います。

また今年度も他寮への異動や十字園を退所し新しい環境での生活を始められた方がおられます。今後も、それぞれに適した環境を考え、最善の支援ができるよう努めていきたいと思っております。来年度もよろしくお願ひします。

動物とのふれあいと外食

6月15日、いくとぴあと梅の花へ行ってきました。いくとぴあにはアルパカや羊など沢山の動物がいました。少し怖がる方もいましたが、皆さん興味を持ってふれあい、癒されていました。

そして、梅の花での食事。次々と運ばれてくる料理を目の前に笑みがかほれます。

「美味しいね。」と話しながら箸を進めていました。

天候にも恵まれお腹いっぱい、大満足な日となりました！（樋浦）



カラオケ 外食

7月15日、いぶき寮行事でカラオケへ行って来ました。出発前から皆さん楽しみにされており、車中でも笑顔が多く見られました。

到着しマイクを持つと、いよいよカラオケの始まりです。童謡やアニメの曲や演歌など、皆さん好きな曲を職員と一緒に選び大きな声で歌っていました。

お昼にはラーメンやオムライスなど好きなものを選び、さらにデザート、コーヒーと食事も楽しまれ、良い外出となりました。

（伊藤ゆりか）



けやき寮

主任 高橋 正人

今年度も寮運営にご協力をいただき有難うございました。

昨年、流行語大賞にも選ばれ、政治絡みの問題でも連日よく耳にした「村度」。一般的な意味は「他人の気持ちを押し量ること」と言われています。私達も日々の社会生活を送っていく中で、意識と無意識で繰り返される、いわば日本文化、人種の特徴ではないかと思われま。

ところで村度は支援の場で必要なのか否

かという個人的な疑問がふと浮かびあがってきた為記しています。

支援の場でも村度さながらの「合理的配慮」を施して、良し悪しを見分ける時があります。当然、対象利用者が自分らしく、潤いのある生活を望めるように支援者は段階的に支援を行っていくわけですが、中々うまくいかない事の方が多いように感じます。やはり最終的には、原点回帰とした推察に頼らない観察眼が重要になってくると思います。

あたりまえではありますが個々に合わせた生活スタイルを提供する上で支援者側の一方的な村度にならないよう、来年度もスタッフ一同取り組んでまいります。

秋色探しへ

11月16日、束の間ではありましたが、秋の風情と美味しい食事を楽しんでいただく目的で瓢湖と五頭山麓うららの森へ行きました。

当日は天候に恵まれず、生憎の雨だった為、車窓から景観や白鳥を眺める程度で残念でし

たが、五頭の名物(?)やわか豚なんこつ丼で参加者の嬉しそうな表情が見られました。

来年度も四季折々の風情を感じていただけるような外出を取り入れながら計画していきます。(高橋)



雑感

リフレッシュ

皆さんはリフレッシュできていますか? 社会人になって2年、リフレッシュの大切さを日々感じようになりました。

私のリフレッシュ方法一つは美味しいものを食べる事です。おかげで皆さんご存知の通り、縦も横も成長が止まらず困っています。もう一つは釣りをする事です。休日はもちろん、仕事終わりもいきます。海や川に行き、釣りをしている時が一番たのしいです。これが私のリフレッシュ方法です。(小島)



さつき寮

主任 小柳 雅美

本年度はじめに掲げた寮目標は、「個別支援 ー安心してできる環境と参加したい活動ー」でした。

成果としては、日中活動で、新しい活動をお一人に一つずつ考え、取り組めたこと

です。担当職員も、改めてご利用者がもっている力に着目する事ができました。

反省点としては、新たな、もしくはより特性に配慮した活動場所を提供できなかった事が一つ。そして余暇支援外出で、目標各月お一人2回ずつとしたところを、満たせない方が多くいた事です。

いつも保護者の皆様、多くの関係者の皆様に支えられているさつき寮です。今後ともよろしくお願い致します。

ブドウ狩り



9月20日、白根グレープガーデンへブドウ狩りに行って来ました。ブドウ摘み取り+3種類食べ比べ+ジェラートのコースで、存分に楽しむことができました。



ブドウの摘み取りでは、たくさんのブドウを見て「どれを取ろうかな。」と楽しんで摘み取りを行いました。食べ比べとジェラートでは皆さん、てんこ盛りのブドウをあっという間に完食されていました。一日を通して笑顔溢れる外出となりました。(本藤)



余暇外出

さつき寮では、寮行事の他に毎月昼食外出を実施しています。外出先はかつ丼や豆腐懐石などの飲食店、カラオケなど様々で、参加される利用者さんの趣向に合わせて計画しています。



昼食外出の他にも法人内のはまゆう喫茶やこんぺいとうも利用者さんにとって楽しみな外出の一つです。

毎年春夏に行うお花見と花火鑑賞、今年も皆さんと見られるのが楽しみです。(田中)

日々思ひつゝ

栄養士 二岡 幸子

今年度も、多くの学生が十字園に実習にやって来ました。十字園では、実習期間中に医療や庶務と並び、栄養士からも講義の時間を設けています。



身体的な機能・栄養状態に対してだけでなく、その方に合った食環境の提供や自閉症の方への対応、応用行動分析学(ABA)に基づいた食事支援などについてもお話ししています。利用者の皆さんが健康で、そして何より自分らしい食生活を送れるよう職員みんなで考えたものです。「先日もこんな事があってね」と身近なエピソードを交

え話しをすると、学生も懸命に耳を傾けてくれます。

私も学生時代に実習先でいただいた言葉を20年以上経つた今でも覚えていたりしますが、ご縁あつて十字園で実習された学生の皆さんが、いつか人を支える仕事に携わる時、十字園で学び、感じた事を思い出してくれたいいな、そして食の大切さをしっかりと考えられる人であつて欲しいな、と日々思つていま



オンブズマン委員会

支援員 田宮 崇史

十字園ではオンブズマン委員会を設置しています。内部評価だけではなく外部からの指摘・助言を受け入れ、修正・改善に取り組んでいます。オンブズマン委員は大学教授・他施設長の3名で構成されています。定期的に訪問して頂き、利用者との個別面談・施設見学等多岐に渡り参加して頂いております。今年度は寮会議に参加して頂き、寮での支援方法・指針を伝



え助言・指導をして下さいました。また、虐待防止やご意見・苦情に関しても客観的な視点で助言を頂き、特に今年度は虐待の早期発見チェックリスト・ご意見・苦情報告書の改訂等いろいろと変化を試みました。委員の方々の力をお借りしながら、より良い施設作りの為、その言葉を受け止め、支援の向上に努めて行きます。

オンブズマン制度は人権擁護係が中心となって活用していますが、施設や職員だけでなく、ご利用者・ご家族にとつても頼れるものです。困りごと・相談・意見・苦情等いろいろな面で活用することができますので、是非ご利用下さい。

